

こうかい ひこうかい べつ  
公開・非公開の別

■ 公開  部分公開  
 非公開

## 第3回浜松市外国人市民共生審議会会議録

1 開催日時 令和6年2月7日(水) 午後6時00分から午後7時30分

2 開催場所 市役所 本館8階 第5委員会室

3 出席状況

委員 アルバレズ アントニ

川越 レニ

グエン ティ タン トウイ

クマラプラタマ

シム キュマン

妹尾 圭持

只尾 ジェニファー

丹野 清人

(敬称略・五十音順)

事務局 国際課 課長 松井 由和

国際課 課長補佐 古橋 広樹

国際課 一般職員 山村 果穂

4 傍聴者 5人(一般:2人、記者:3人)

5 議事内容 (1) 外国人市民と防災・危機管理体制の強化について

6 会議録作成者 国際課 山村 果穂

7 記録の方法 発言者の要点記録  
録音の有無  有  無

8 会議記録

1 開会・挨拶  
《国際課長挨拶》

2 委嘱書の授与（未授与者のみ）

3 第1回・第2回審議会の振り返り  
《事務局から説明》

4 能登半島地震に関連して  
《事務局から説明》

5 外国人市民と防災・危機管理体制の強化について

丹野委員長：それでは、事務局からの説明を踏まえて、皆さんのご意見やご感想をいただきたいと思ひます。

アルバRez委員：能登半島地震がまさか1月1日に起きることは、おそらく誰も予想していなかったことだと思ひます。災害はいつ起きるかわからないと、改めて実感しました。防災グッズをまとめて持ち出せるように準備はしていますが、いざ地震が起きたときにどう動くのか、能登半島地震をきっかけに考え直すことができました。私は防災グッズを準備したり、防災訓練に参加したりしていますが、それでも完璧な対応は難しいと思ひます。発災時に何が生きるか考えると、防災訓練はもちろん、平時のときにどれだけ考えて備えておけるかが重要です。そのためには、かたい情報ではなくて、気楽に見られるような情報を発信できるとよいと思ひました。普段からたくさん情報に接する機会があつて、何となく頭の片隅に残っていると、効果を発揮すると思ひます。

妹尾委員：発災時に頭で考えなくても動けるくらいに準備しておくことが大切だと感じました。今は、能登半島地震があつたばかりなので防災について関心が高いのですが、しばらくするとどうしても関心が薄れてくるので、関心を持ち続けられるような取り組みが必要だと思ひます。防災訓練もその1つですし、気楽に見られる情報というのはよさそうですね。具体的にどのように発信するかのアイディアは、皆さんの意見をお聞きしたいです。

丹野委員長：災害、防災は重いテーマでかたい情報になつてしまいがちです。それで情報が届かないと意味がないので、楽しいイベントに防災について考えるプログラムを入れ込むのはどうでしようか。

川越委員：イベントで防災グッズを目で見て触ることができるブースを作るのもよいですね。災害が起こる前に何をどれくらい備えておけばよいか、目で見てわかるとよいです。例えば、市役所や公民館にブースを作つて、水や食べ物、その他必要なもののサンプルを置いておけば、身近に感じられると思ひます。

クマラプラタマ委員：市役所のモニターで動画を流すのもよいと思いますし、テレビCMも効果的だと思います。目で見て、耳で聞くと頭に入りやすいです。

ジェニファー委員：ホームページで防災について発信するときも、漫画やアニメーションなどだと見てもらいやすいと思いました。

防災グッズは私も買っていたのですが、この間初めて開けてみたところ、必要なものも入っていましたが、使わないようなものもありました。セットで買うと高くつくので、それぞれで必要なものを考えて備えられるようにできるとよいと思います。

川越委員：TikTokなどSNSで流れるストーリーの動画もつい見せてしまいます。

アルバレス委員：バスや電車の車内広告もよく見ます。コンテンツを作るなら、審議会委員や防災リーダーの方も使えると思います。

川越委員：外国人のことでいうと、災害が起きたとき、在留カードやパスポートのコピーをとっておかないといけません。最低限の現金と一緒に準備してあります。

アルバレス委員：私も、通帳のコピーなどをデータ化してクラウドに保存しています。災害でそのものを紛失したり、自分が命を落としたりしても、データがあれば何とかなることもあると思います。それに加えて、紙のアルバムを作ることができるアプリを使って、オリジナルの防災手帳を作っています。そこに在留カードのコピーなどを載せたり、日本語があまりわからない母のために災害のときに使いそうな言葉をスペイン語と日本語で載せたりしています。

グエン委員：技能実習生など、在留期間の短い人は、災害に遭うかもしれないという意識はないと思います。防災グッズも安いものではないので、買わなくてもいいとみんな思っていると思います。また、技能実習や特定技能の人は、会社や監理団体と連絡がとれないとき、誰を頼りにすればよいのかとわかりません。電話番号を持たずに、Facebookなどインターネットを通じてでしか連絡手段を持っていない人も多いです。携帯電話は持っていますが、在留期間が1年間なので、電話番号の契約をしたくてもできないようです。

シム委員：防災リーダーからコミュニティに連絡してもらい、そのような人にもサポートができるようにするのもよいと思いますが、コミュニティに属していないと難しいですね。

ジェニファー委員：会社から携帯電話を支給されたとしても社員寮に住む複数人で1台を共有しているということもあると聞きます。

アルバレス委員：企業でも非常時の連絡網は作られていると思いますが、携帯電話の番号がない場合の連絡体制を考える必要があります。企業が携帯電話の契約をして、それぞれと連絡をとれるようにすることが1番です。料金は給与天引きにするのもよいと思います。

丹野委員長：災害が起こったときに会社や監理団体が機能しなくなる可能性のことまでは考えられていませんでした。技能実習、留学生などは家族も身近にいないので孤立してしまう可能性が高いですね。災害時の連絡体制の整備について、企業や監理団体、学校に働きかける必要がありますね。浜松市の外国人材活躍宣言事業所認定事業で、災害時の対応についてもポイントとするのはどうでしょうか。

事務局：技能実習、特定技能、留学生など、在留期間の短い在留資格の外国人市民が特に増加傾向にあるので、そのような人が孤立しない体制整備は喫緊の課題です。外国人材活躍宣言事業所認定事業では、災害時の対応についても確認しているところですが、そのような意識をより多くの企業に持ってもらえるように、啓発していきたいと思えます。

静岡県がホームページ上に公開している「命のパスポート」は身の守り方、避難生活のことなどがわかりやすく多言語翻訳でまとめられています。例えばこのような情報をHAMAPOにリンクするなど、平時からの情報提供にも取り組んでいかなければと、課題として認識しているところです。

ジェニファー委員：ホームページで、漢字で「防災」と示していても漢字がわからない人はそのページには飛んでくれないので、写真などを載せてわかりやすくできるといいです。

アルバRez委員：ところで、技能実習生は、日本に来る前に数ヶ月日本のことについて事前に教育を受けてから仕事を始めると思うのですが、防災のことはやっていないのでしょうか。

ジェニファー委員：日本語や仕事の内容については勉強しますが、防災についてはされていないので、改善してほしいですね。技能実習生に「防災」がどのような意味なのか、よく聞かれます。監理団体が災害や防災のことについて研修するのを義務化できればよいと思えます。

シム委員：浜松市外国人学習支援センターでは、防災訓練をしながら関係する日本語も学ぶことができるプログラムを作りました。このようなやり方もよいと思えます。

川越委員：これから、避難所での宗教への配慮について課題になりそうですね。礼拝の時間・場所のことや、ハラル食などへの対応を考えなければなりません。

《事務局からの連絡事項》